

はんこは文化 今こそ発信

印章店経営 月野允裕さん

逆境から

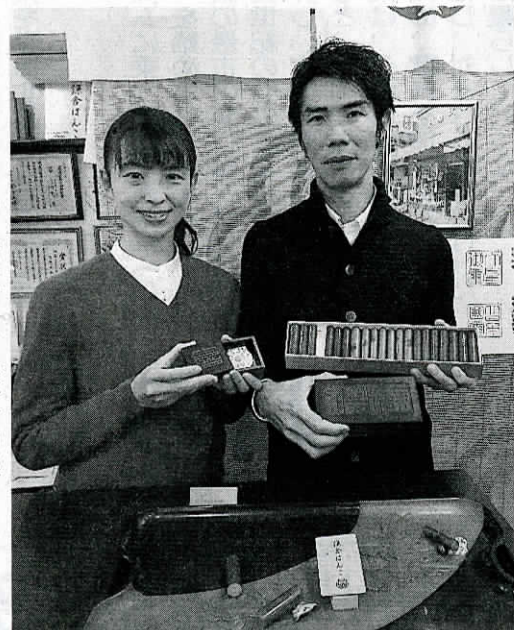
3

鎌倉市御成町で「鎌倉はんこ」を営む月野允裕さん(41)は、2015年の開業当初から印鑑に鎌倉彫を採用していたと考えていた。奈良で祖父が創業した印章店は大阪で父が引き継ぎ、「一生使える1本」を作り続けている。3代目として力を試したいと店を開いた鎌倉で、地元の工芸品に注目したのだ。

しかし細い曲面に文様を彫るのは難しく、材料を固定する作業道具もない、と職人の返事はつれなかつた。あきらめきれずに再度頼み込んで18年に試作が始まり、ついに20本の限定発売にこぎ着けたのが2020年10月だった。コロナ禍で来店客数は3割減で、さらに国がデジタル化推進の旗印として押印廃止を打ち出した最悪のタイミングだ。それでも月野さんの表情は存外明るい。



ツゲ材にサクラやツタなどの文様を彫り、漆を塗った鎌倉彫はんこは、こまめにつくるのに約4カ月。そこからさらに1カ月かけ、印章彫刻技能士の国家資格を持つ月野さんと妻の千恵子さん(37)が、格式ある字体で文字を彫る。量産が難



月野允裕さんと妻の千恵子さん 鎌倉市御成町

鎌倉彫採用「人生の節目刻んで」

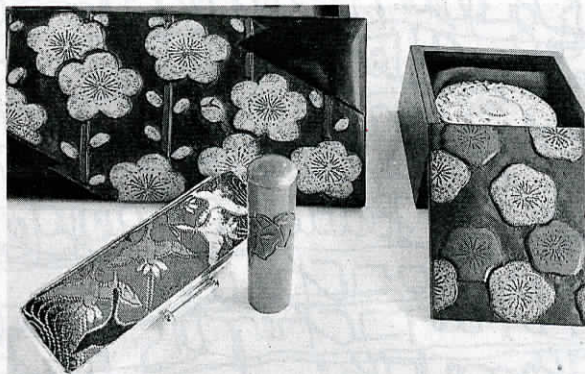
しく1本約2万5千円(税抜き)からと高価だが、既に22本の注文が入った。職人に追加製作を依頼し、3カ月待ちという。

「企業経営者や、息子さんへのプレゼントという方もいた。人生の節目を刻む宝物として購入いただいた。はんこは本人確認だけの道具ではない、と訴えていくこれからの道筋が、はっきりした気がします」



そもそも安価な三文判を扱うチェーン店が台頭し、縁起の良い印相にこだわる従来の印章店は縮小が続いていた。「今回の押印廃止の対象は事務用品である認め印。うちでは置いていません。僕自身も合理化、デジタル化の利便さは実感し

た。はんこが好きで、はんこ文化が根付く日本に移住したフランス人タレントの発言には勇気づけられた。「中途半端にアメリカ流を追いかけ、合理化を理由



「一方で、結婚や大きな契約など人生の重大局面で書類にはんこを押す行為は、決意を変えないという意思表示の意味合いが大きい」と月野さんは考える。コロナ禍で人との接触を減らそうとデジタル化、リモート化が進んだ今だから、対面してはんこを押すことの特別さがなおさら明確になったとも感じる。

だから、押印廃止の先頭に立つ河野太郎大臣が「押印存続」に挙げた約80の届けに「婚姻」や「離婚」が入っていないのが心配だ。

「はんこが大好きで、はんこ文化が根付く日本に移住したフランス人タレントの発言には勇気づけられた。」「中途半端にアメリカ流を追いかけ、合理化を理由

に日本独自の文化を自らつぶしちゃうのは悲しい、と彼は言う。外国から見れば、節目節目に迷いを断つように押印する習慣は立派な文化。「遅れてる」「面倒」で片付けられませぬ」

大学卒業後、IT企業に10年勤めた月野さんは、小さなはんこに個人のアイデンティティを重ねてきた日本ならではの新展開を構想する。例えばはんこにQRコードをつけ、本人確認のための認証手段として使ってはどうか。「指紋認証は登録も大変。その点、小さなはんこは持ち歩きも保管も簡単です」

店の経営は苦しいけれど、今こそ「あるべき印鑑の未来の姿」をじっくり考え、鎌倉から発信しよう」と月野さんは考えている。(織井優佳)

① ツゲ材の鎌倉彫はんこ(中央)。錦で飾ったケースや朱肉なども収める化粧箱も用意した。鎌倉はんこ提供

② 店頭には、行政改革担当として脱はんこを推進する河野太郎氏からの「はがきも」鎌倉市御成町

大臣公認 鎌倉彫印鑑
河野大臣も利用されている
鎌倉彫印鑑です
お礼の状やお金を頂きました
2023年10月1日

鎌倉市御成町
月野 允裕 さん
お世話になっております
お礼の状とお金を頂きました
2023年10月1日